

共育の丘だより 第11号 2019春

山口大学 大学教育機構 大学教育センター ニュースレター



「山口大学は、教えるだけの教育ではなく、

教員と学生、あるいは地域と一体となって

発見し・はくくみ・かたちにすることで共に高め合い、

未来を拓く『共育』を目指しています」

『2014 山口大学案内』より

共育の丘（山口大学 吉田キャンパス）

巻頭言

令和最初の『共育の丘だより』をお届けします。新時代の大学教育では、大学入学共通テスト（新テスト）の開始、Society5.0に向けた人材育成など、多様な課題に対応していく必要があります。

山口大学 大学教育センターには、「教育開発部」、「教学インスティテューショナル・リサーチ(教学IR)部」、「データサイエンス教育推進室」、「YU-AP推進室」の4つの部・室があり、多様な課題に対応すべく日々の業務に取り組んでいます。教育開発部では、大学教育研究組織や共通教育、教授内容・方法の改善・向上のための研修会等の企画、改善及び実施を担当しています。教学IR部では、教育活動や授業改善、学生の学修成果の情報収集・分析、学生授業評価及び大学教育職員自己授業評価等の企画、改善及び実施を担当しています。データサイエンス教育推進室は、共通教育におけるデータサイエンス教育の企画及び運営等の業務を行っています。YU-AP推進室では、文部科学省・大学教育再生加速プログラム（AP）によるアクティブ・ラーニング推進や学修成果可視化の業務を行っています。

大学教育センターの専任教員、主事はこれらの部や室に属して活動するとともに、定期的にミーティングを開き、意見交換を行って業務を進めています。その活動が山口大学の教育・システムの改善や課題の解決に資するよう、ひいては本学の学生や教職員にとってよりよい環境に繋がるよう、学部学科の先生方と共に活動を続けていきたいと思えます。

（菊政 勲 山口大学 大学教育機構 大学教育センター長）

INDEX

- P1 巻頭言
- P2 大学教育センターの動き
- P3 新メンバー紹介
- P4-5 学生FDサミット2019春 参加記
- P6-7 学都やまぐちトークライブPart2
&やまぐち探訪記
- P8 編集後記

【※ 本ニュースレターは、山口大学基金「学生の就職支援・教育環境の改善等助成事業」の支援を受け、編集・刊行しています。】

大学教育センターの動き

FD・SDとは？

はじめに

FDはFaculty Developmentの略称で、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組」を指します。SDはStaff Developmentの略称で、「事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組」を指します(中央教育審議会答申・用語集より)。

山口大学 共育ワークショップ2019開催！



2019年3月14日(木)午後、共育ワークショップ2019「多様化社会において必要とされるコンピテンシーとは ～高大接続・社会接続の観点から～」を山口大学学生会館2階会議室(吉田キャンパス)にて開催し、学内外から68名が参加しました。共育ワークショップは、大学教育センターが主催し、大学の教育(共育)について、学生、教職員が一緒になり、様々な観点から語りあい、考えるというコンセプトです。今回は、大学関係者、高等学校関係者、企業・行政関係者が一緒になって、教育について考える場づくりを企画しました。

福田 隆真 理事・副学長(教育学生担当)より開会挨拶があった後、まず、株式会社ザメディアジョン・リージョナル代表取締役 北尾 洋二 氏より「『巻き込む

力』を育むには ～企業家(起業家)からのメッセージ～」と題した基調講演があり、次に、熊本北高等学校教諭 溝上 広樹 氏より「『探究する力』を育むには ～高等学校現場からのメッセージ～」と題した基調講演がありました。前半の最後として、山口大学 大学教育機構 大学教育センター 林 透より「山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)からのメッセージ」と題し、事業成果報告がありました。

後半のSDGsカードによるワークショップ「2030年多様化社会を見つめ、必要とされるコンピテンシーについて考えてみよう！」では、学校法人 広島城北学園 広島城北中・高等学校教頭 中川 耕治 氏、Communication Lab, Beyond words代表 越 希美江 氏のファシリテーションのもと、SDGsカードゲームを繰り広げました。



2019年度「新任教員研修会(第1回)」実施！

本研修の目的は、新任教員を対象として、本学において教育活動や研究活動を実施していく上で必要な知識・情報等について説明し、本学の教育職員として相応しい認識を高めると共に、大学運営に関する理解を深めることにあります。

第1部および第2部の2部構成となっており、第1部では総務企画部人事課が提供するメニューとして、大学の経営方針や新任教員として知っておくべき基礎知識を中心に説明を行い、第2部では大学教育機構が提供するメニューとして、授業運営や学生対応において知っておくべき基礎知識や注意点を中心に説明を行いました。

参加者は前年度並みの参加者があり、参加者アンケートについては、満足度78.1%(非常に良かった+良かった)であり、自由記述では「山口大学の方針や授業の取り組み方について、確認できたのが良かった」「授業、ALの実践などについて役に立ちそうなことがありました」といった肯定的なコメントが見られました。



新メンバー紹介



高林 友美 助教（特命）

「共に育つ」場所で学びたいこと

はじめまして、高林友美と申します。3月に大学院を修了し、初めての職場として山口大学にやってきました。共に育つとは、とても良い言葉ですね。このような場所で働けることを、とてもありがたく感じています。

大学院では自律的学習の研究をしていました。今も、Access-Bring-Cycleモデルとして、3つの段階で自律的に学ぶ方法を説明することを考えています。せっかくなので、山口大学で私が学んで育っていききたいと思っていることについて、この3段階のモデルで整理しようと思います。

【手を伸ばす】自ら学ぶには、良い教育資源にアクセスし、手を伸ばす必要があります。自律的学習は、一人ではできないということでもあります。例えばしまね学生FDに行き、他大の取り組みにたくさん触れること。学生さんのいろんなデータを集めること。山口・山口大学の歴史について聞くのも楽しいですね。

【手に入れる】面白いものに触れたあとで、しっかり掴んで自分のものにするための段階を経る必要があります。持って帰るお土産は、手を伸ばしたものの全てではないかもしれませんが、自分なりの味付けが加わって深みのあるものになるかもしれません。学生座談会・会議などの対話の場で得られた情報を、しっかりと整理して、その意味をよく考えたいです。レポートを書くことで学んだ内容を吟味するのも大事にします。

【続ける】息をするように、血が巡るように、新しいことを学んだらまた次の学びを続けることまで自分で管理できると、自律的学習は成熟してきます。センターで行われる様々なイベントのつながりをとらえ、客観的にモニターすることで、次のアクションを考えて繋がりたいと思っています。また、次回も頑張れるようなモチベーションを管理することも、「続ける」ために忘れずに意識しておきたいです。

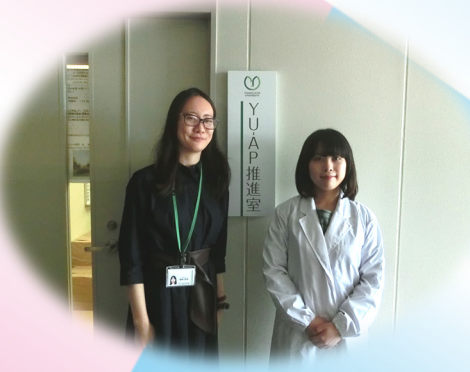
私ばかりが学ぶのでは「共に育つ」にならないので、それぞれの段階で学んだことを共有しながら、今後一人でも多くの学生が山口大学に来て良かったと思えるように、できる限りを尽くしてみたいと思います。

これまでの助教と同様、私は共通教育棟2F奥のAP推進室にいますので、いつでも遊びに来てください。共に学べることを楽しみにしています。



西谷 泉水 農学部3年

はじめまして。農学部3年の西谷です。学生スタッフのことは、2年の終わりごろから友人から聞いていましたが、正直全体像があまり想像できませんでした。しかし、実際に説明を受けてみると、予想よりも活動的で、学内外に広く、より良い教育のために活動していると感じました。教育改善というテーマに強く興味があるわけではないのですが、今まで知らなかったことを知りたいという欲求・興味はあると思います。活動を通して、少しでも新しい知見と出会い、私からは現役学生だからこそ伝えられることを貢献できたらと考えています。短い期間のお付き合いになるかと思いますが、これから宜しくお願い致します。



学生FDサミット2019春

～in 島根県立大学～



2019年3月21、22日の2日間、島根県立大学・出雲キャンパスにて、学生FDサミットが開催されました。学生FDとは、学生が大学をより良くしていこうと取り組む活動のことで、学生FDサミットはその活動をしている全国の学生・教職員が一堂に会し各大学の活動の紹介や意見交換をしたり、課題を話し合ったりする場です。

今回のサミットのテーマは「縁結び”学生FD次のステップへ”。平成最後のFDサミットということでオープニングではまず、過去・現在・未来に分け学生FDサミットのこれまでの歩み、そしてこれからについて考えました。

オープニングの後には20の大学によるポスターセッションが開かれました。他大学の活動を知るだけでなく直接質問し、また質問されることで共通点や改善点など今後の活動をより深く考えるきっかけとなりました。夕方には情報交換会があり、ポスターセッション時の真面目な空気から一変して、全国から集まった同世代の学生同士が各々のテーブルで大いに盛り上がりを見せていました。

2日目には「学生FD“修行プラン”」をテーマにしたしゃべり場があり、34大学の学生・教職員混合の小グループで「学生FDとして成長するための修行プラン」を考えました。この修行プランは投票により上位7グループを決定し、選ばれたチームにはプレゼンしてもらいました。選ばれたグループの修行プランの真新しさや模造紙の魅せ方などとても面白いものばかりでしたが、プレゼン能力の高さにも驚かされました。

2009年に立命館大学で第1回を迎えた学生FDサミットですが、今年で10年目という節目を迎えました。節目の年に「縁結びの地」で開催されたことや他大学の学生との交流など随所に縁を感じさせられるサミットとなりました。次回19回目となる学生FDサミットは北海道の北翔大学にて開催されます。興味のある方は、ぜひYU-AP推進室にお越しください。

(農学部3年 谷崎 絵美里)



プログラム

〈1日目：3月21日（木）〉

- 12：30～ 受付開始
- 13：30～14：50 オープニング
- 14：50～15：00 ガイダンス
- 15：30 集合写真
- 16：00～17：30 ポスターセッション
- 18：00～19：30 情報交換会

〈2日目：3月22日（金）〉

- 8：30～ 受付開始
- 9：00～12：00 しゃべり場
- 12：00～14：00 昼食／投票
- 14：30～15：40 成果発表
- 15：40～16：00 クロージング



参加者からの便り



経済学部3年 川田海栄

今回の学生FDサミットは3回目の参加でした。山口大学からの参加者の中ではもちろん、サミット内でも参加回数は多く、他の参加者を引っ張っていかなければならない立場での参加でした。特に、各大学がバラバラとなって「FDの成長」について考える「しゃべり場」では自分の経験を生かし、チームの意見を吸い上げる事によって約30チームある中からトップ7に入るなど、これまでの経験や知識、ノウハウをこれからの世代に生かし、託すことができたのではないかと考えています。私個人もまだまだ学ぶことは多いですが、学生FDサミットに参加し得るものは、他大学との関わりを含めて、大学の教員と学生との関わり方について問題意識を持ち、解決する力を養うことです。



理学部2年 中村優紀

学生FDサミット2019春in島根に参加しました。発表やポスター、交流会の際に、たくさんの学生が他の学生を思い、大学生活をより良くするために活動している事を知りました。その中でもアイデアや行動力が飛び抜けている団体や、長年活動し本格的な組織になっている団体、組織したばかりでも多くの活動をしている団体などがあり、私自身YU-APの一員となって浅い為、これから意欲的に様々な企画をやっていたらなど思いました。また、学生FDサミットを通してたくさんの友達が出来た為、団体としてのみならず、個人的にもとてもいい機会でした。

経済学部3年 杉本寛晟

今回の学生FDサミットはいつもと少し違う幕開けでした。『学生FDが形式化していないか。みんなで話し合って、はい終わり。』参加大学のある方が冒頭で演説しました。確かに、これまで議論して満足していた点はあると思います。この冒頭を聞いて、他大学の学生と「今後は結果を目に見える形で示していけたらいいね」という話をしました。課題が明確になったような気がします。

今回も、数多くの参加大学の学生や教・職員の方々と交流を持つことができ、有意義な時間を過ごすことができました。春ということで、新メンバーの確保の話もあがり、幅広い話を共有することができました。

新入生をはじめ、2・3年生メンバーも募集していますので、興味のある方は共通棟2階YU-AP推進室まで！



学都やまぐち・トークライブ Part2

「地域×学生でレジェンドに学ぼう！」実施レポート



山口市内中心部は、江戸時代の頃から山口講堂、その後の山口明倫館に始まり、旧制山口高等学校、さらには、山口大学がキャンパスを構え、文教都市の面影を漂わせていました。現在、その面影は薄れ、大学生がまちなかに日常的に集う風景が少なくなったのではないのでしょうか。「学都やまぐち」という言葉を今一度体現するには、この地域で教鞭をとり、近代日本教育をリードした「北条時敬（ほうじょう ときゆき）先生」「西田幾多郎（にしだ きたろう）先生」のレジェンドに学び、地域×学生と一緒に考えていく必要があると思います。10年後（未来）の大殿地域を考えた昨年度のイベントに引き続き、今年度のイベントでは、大殿地域の過去のレジェンドに学びながら、地域住民、自治体関係者、大学生、大学関係者が一緒になって対話する機会を設けました。

2019年2月23日は、山口ふるさと伝承総合センター2階研修室を会場にして、約30名の参加者が集まり、第一部トークセッションにおいて、大学文化大学 谷本先生、山口大学名誉教授 岡村先生より、山口市内中心部にあった旧制山口高等中学校や旧制山口高等学校の経緯や沿革を学ぶとともに、旧制山口高等学校の教師として赴任した西田幾多郎先生の山口時代の生活ぶりが紹介されました。その後、山口大学生2名（人文学部3年 廣本明日香さん、堀井さやかさん（学生スタッフ））からは大殿地区での活動報告、山口県立大学生2名からはSLアテンダントの活動報告がありました。



学都やまぐち・トークライブ Part2
「地域×学生でレジェンドに学ぼう！」

「学都やまぐち」の中心で、地域×学生が繰り広げる3時間のトークライブ。
「学都やまぐち」が育んだレジェンドに学びながら、地域住民、自治体、大学、学生が一緒になって対話しながら、この地域のミライを描いてみよう！

日時 2月23日 土 13:30～16:30

会場 山口ふるさと伝承総合センター 2階研修室
山口市下堅小路12番

構成

第一部 トークセッション 13:30～15:15

- (1) 旧制山口高等中学校・山口高等学校のレジェンドに学ぶ
～近代日本教育史における山口県に焦点を当てながら～
大東文化大学 東洋研究所 特任准教授 谷本 宗生
- (2) 山口時代の西田幾多郎
山口大学 名誉教授 駿達大学 山口学習センター 所長 岡村 康夫
- (3) 地域で学ぶ大学生からの事例紹介
山口大学生ほか

第二部 ライブセッション 15:20～16:30
グループワーク「地域×学生でレジェンドに学ぼう！」

第二部ライブセッションでは、地域住民、自治体関係者、大学生、大学関係者が一緒になって、第一部での基調講演や学生報告を振り返りながら、地域×学生による大殿地域アクションプランを考え、提案しました。「大殿地域でのホームカミングデー」「空き家を活用したシェアハウス」「大殿文化案内人（学生ガイド）」など、実現可能なアイデアが提案され、今後の地域活動に活かしていくこととしました。



やまぐち探訪記 第十一回

(湯田温泉 (山口市))

山口大学の御膝元と言えば、「湯田温泉」です。JR湯田温泉駅を降りると、高さ8メートルもある白狐「ゆう太」が迎えてくれ、思わず、特別な土地に来たという気持ちを抱かせてくれます。温泉地が近くにある大学と言えば、この近くでは、愛媛大学には道後温泉、島根大学には松江しんじ湖温泉があります。湯田温泉は平地の県道沿いに開けていることから、外見からは温泉地独特の旅情に欠けるように思われますが、その魅力は温泉を体を浸してみると良く分かります。湯田温泉は湯量が豊富で、良質なので、もっと多くの人に、その魅力を感じていただきたいです。

ちなみに、私は、お客様があるときには、必ず、湯田温泉に宿泊いただき、山口の食とともに、湯田の湯を楽しんでいただくことをお薦めしています。

大学は、ある意味において集客力のある組織体なので、学会やイベントを誘致して、山口大学とともに、湯田温泉の魅力を知っていただきたいと願っています。そんな「おもてなしの心」が新しい魅力を生み出すことでしょ！

やまぐち探訪の旅は、まだまだ続きます。





学生スタッフ募集!



オン・キャンパスでジョブ
オフ・キャンパスでチャレンジ



大学教育センター 林 透
083-933-5067



林 透(担当教員)
toru-h@yamaguchi-u.ac.jp



<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/>

Our Works!

共有ワークショップ
山口大学の教育(共有)について
学生・教職員が一体となり共にはぐくむ場
年に一回開催!

共有の丘だより
大学教育センターでの
活動や広報のため
年に二回発行!

**山口大学・大学教育再生加速プログラム
(YU-AP)推進事業**
2014年秋に採択された全学を挙げての事業
学生・教職員が協働して推進!

SLPの開発
Student Leader Program
リーダーシップ養成
学習相談会(ピア・サポート)
キャリア学習会(就業力支援)...

学生向けの
新・正課外教育プログラムを
教職学協働で創造!

学生FDサミット
全国を飛び回って大活躍中!!

オン・キャンパスでジョブ
学修到達度テストの補助業務
学内企画イベントの補助業務
オフ・キャンパスでチャレンジ
学生FDサミットに参加して他流試合
山口市・長門市・周防大島などでの体験学習

Contact!

YU-AP推進室
TEL:083-933-5261
E-mail:yuap@yamaguchi-u.ac.jp

編集チーム

林 透
(大学教育センター准教授)
高林 友美
(大学教育センター助教(特命))
伊藤 千恵美
(教育企画係)

学生メンバー

廣本 明日香 (人文学部4年)	大亀 洋輔 (理学部3年)
堀井 さやか (人文学部4年)	藤井 聖也 (工学部3年)
今徳 凌太 (経済学部4年)	谷崎 絵美里 (農学部3年)
岡 寛範 (経済学部4年)	西谷 泉水 (農学部3年)
川田 海栄 (経済学部4年)	松瀬 可葉子 (農学部3年)
増田 雅也 (国際総合科学部4年)	中村 優紀 (理学部2年)
原 きく乃 (人文学部3年)	山口 由貴 (理学部2年)
杉本 寛晟 (経済学部3年)	

編集後記

学生FDサミット2019春では何度目かの参加の学生と初参加の学生がいました。経験を重ねた学生は参加ごとに、より深く濃いものを築き上げていくようでした。またそれが後輩に引き継がれていくのが感じられました。そうやって次々つながっていけば、さらにより良いFDになっていくと思います。この度新メンバーも増えましたので、より盛り上がりたと思います。(教育企画係 伊藤千恵美)

発行:
大学教育センター
(2019年6月13日 発行)

大学教育は、大学教職員、学生、地域をつなげます